様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：２５５０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４５２００６７

研究課題名（和文）幕末維新期の長州真宗僧に関する史料と口承による総合的研究

研究課題名（英文）A Multidisciplinary Study on Historical Documents and Oral History Concerning Shin Buddhist Priests between the End of Edo Era and Meiji Restoration

研究代表者
安溪　遊地（Ankei, Yuji）

山口県立大学・国際文化学部・教授

研究者番号：５０１４９０２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：幕末の長州藩士や奇兵隊等の緒隊の活躍に比べて明治維新につながる動きの精神的な支柱や政治的な影響、さらには具体的な軍事行動において仏教僧の果たした役割についての解明は研究の蓄積が少なかった。この研究では、真宗僧の活躍に注目して、その史料や口承を集めることに集中した。その結果、長州４傑と呼ばれながらほとんど史料がなかった香川葆晃について、その辞令や新潟での現地調査を踏まえて、四境戦争の前夜に長州藩の密偵として活躍したことを明らかにした。精力的な社会改革運動をおこなった島地黙雷の日記のデジタル化に着手し、吉田松陰の倒幕思想に大きな影響を与えた呉の僧宇都宮黙霖の残した膨大な手稿のデジタル化を完了した。

研究成果の概要（英文）：Warriors and commoners of Choshu; Clan played important roles in the civil war to overthrow the old regime of shogunate. But we forget the priests of Shin Buddhism; they worked to form a spiritual and political background, and participated in the military actions. Among the four most fervent priests, the least known Kagawa Hoko; was the first focus of this research, and based on historical documents and oral traditions, it was discovered that he worked as a spy for Choshu. As for Shimaji Mokurai, the most energetic in social reform movements among the four, we succeeded in getting permission for the digitization of his manuscripts, and diaries. Further, all the manuscripts of Utsunomiya Mokurin were digitized. He was a priest of Kure, Hiroshima and directly influenced the thoughts of Yoshida Shōin, the teacher for the Meiji Era political and industrial leaders of Japan. Thus, we arrived at a point where we can begin constructing an alternative view of Japanese modern history.

研究分野：地域学　文化人類学

キーワード：幕末　維新　長州　山口県　仏教　真宗　口承伝承

１．研究開始当初の背景

長州四傑僧の事績の解明の必要性。明治維新の立役者としては吉田松陰とその門下の活躍に光があてられることが多いが、維新へ向けて庶民を動かした仏教僧の大きな影響についての実証研究はたち後れている。ことに、月性（柳井市遠崎・妙円寺）の影響のもと、幕末の長州藩で活躍した島地黙雷（山口市徳地島地･妙誓寺､のちに盛岡市･願教寺住職)、大洲鉄然（周防大島町・覚法寺）、香川葆晃（周南市富田・善宗寺）、赤松連城（周南市徳山・徳応寺）の4 人の真宗僧侶は、「長州四傑」といわれる､めざましい働きをみせた。奇兵隊が結成されるのに引き続いて、金剛隊をはじめいくつかの僧侶隊も結成されたが、それ以上に、藩内が正義派(討幕派)と俗論派(恭順派)に二分して、はげしく対立しているとき､月性の遺志をついだ真宗僧たちが護法､護国のために正義派を支持すべきことを民衆に説いて廻ったことの意義は大きい。

第２次長州征伐の直前の慶応元(1866)年、長州藩は当時の全戸数をはるかに上回る36万部ともいう『長防臣民合議書』を印刷配布して、幕府と戦う長州藩の大義について、庶民にもわかりやすく伝えたのであったが、武士だけでなく全住民を巻き込んだ戦いにおいて、長州における寺子屋の普及と識字のために教師としての僧侶が果たした役割は大きなものであった。長州四傑のなかでも、ことに島地黙雷は、明治5 年の岩倉使節団に同行した経験をもとに､廃仏毀釈の嵐を押しとどめ､信教の自由の獲得や女子教育の開始など、新しい時代を切り開くめざましい活動の中心的役割をになった。

２．研究の目的

上記の僧侶の群像を、史料の発掘と関係者からの聞き取りという複合的手法で明らかにし、研究者の専門分野が多彩さであることを生かして、従来の宗教史の概念にとらわれない、新しい成果をめざすものである。

３．研究の方法

まず、研究のモラルについて、チーム内で宮本・安渓（2008）の『調査されるという迷惑』を共有して、地域との人間的信頼関係にもとづく協働で研究をおこなうことをもっとも重視してとりくむ。

各自が分担して、関連する資料の入手と入手した資料の分析を行う。研究代表者が入手した 42 枚の香川葆晃の辞令・免状（明治 2 年から明治 31 年）は従来学界にその存在が知られていない一次資料であるため、慎重に分析をすすめる。

聞き取りと史料閲覧の現地フィールドワークを実施する。山口県内の寺院、金沢・新潟・岩手県についてのフィールドワークを行う。とくに、香川葆晃の誕生寺である新潟県上越市の真照寺と島地黙雷の終焉の地である岩手県盛岡市の願教寺では、綿密なフィールドワークを実施する。

吉田松陰の思想に大きな影響を与えた広島県呉市広長浜の専徳寺の宇都宮黙霖の史料等、幕末維新の時代に長州で活躍した僧についても、目配りをすることにしている。

研究の進捗状況を確認し、データベース構築をすすめつつ、それぞれの研究者の視点からの研究報告を学会等で発表するとともに、地域の郷土史研究グループとの連携のもとで山口県の中央部・南部・北部での公開講演などを通して地域への研究成果の還元をはかる。

４．研究成果

越後竹直村（現在の上越市竹直）の真照寺の次男であった（香川）葆晃は、始め大証とも名乗った。本願寺で学僧を目指す中で倒幕の運動に参加したために六角の獄につながれ、そこから脱獄して萩に逃れた。そこで大洲鉄然・島地黙雷・赤松連城らの宗門改革の取り組みを助けたと『仏教大辞彙』（冨山房）には記されている。のちに葆晃が入寺する善宗寺での聞き取りでは、萩では幕府の密偵ではないかという疑いをかけられて野山獄に投じられたが、慶応４年（明治元年）２月に善宗寺の住職となった。善宗寺は現在の山口県の南部に 130 もの末寺を有した有力な真宗寺院であり、鉄然の覚法寺（周防大島久賀）や、黙雷がうまれた専照寺（佐波郡升谷)、養子に入った妙蓮寺（佐波郡堀村）と住職となった妙誓寺（佐波郡島地)、越中生まれの連城が養子に入った徳応寺（都濃郡徳山）のすべてが善宗寺の末寺だったのである（『防長寺社由来』第７巻)。二度の入獄から大寺の住職へ。この間に葆晃の身に何が起こったかは、これまで明らかではなかった。

『奇兵隊日記』の 43､慶応元年 9 月の項に、京大坂の情勢探索の長い報告があり、幕府の対長州の戦争へ向けた諸藩・東本願寺のさまざまな準備の状況や事件などが詳しく報告されている。西本願寺境内に駐屯し始めた新選組に見つかりそうになったので急ぎ戻ったというこの密偵報告の署名は「宗淵・葆光」となっている。山口県文書館の所蔵する毛利家文書には慶応元年の「長州善照寺宗淵・真照寺大証嘆願書」があり、明治元年には「長州三見村善正寺宗淵と越後真昌寺葆光の事」という記事があるから、宗淵とともに長州藩のための諜報活動にたずさわった越後真照寺の「大証／葆光」が、葆晃であることは間違いない。四境戦争の準備段階で得がたい情報をもたらしたことへの藩の褒賞として、葆晃の善宗寺への入寺があり、盟友となった僧たちもそれを受け入れたと考えられる。

その後、本山の学僧として活躍する葆晃が、後に新仏教運動の推進者となる高嶋米峰（大円）の叔父として米峰の京都での勉学を支えたこと、京都での側室が毛利家の武士の娘であり、伊藤博文と寺内正毅の間の第二代（韓国）統監の曽祢荒助の妹であったことなどを

あらたに明らかにした。

また、イギリスの探検家イザベラ・バードの京都滞在記の中に、きわめて流暢な英語を話すエネルギッシュな赤松連城との印象的な出会いについての詳しい記述があることを紹介した（以上、Ankei *et al*, 2012）。

月性と超然のキリスト教排斥運動についての博士論文（岩田、2012）を完成させた岩田真美は、さらに新しい時代や関連するテーマについても視野を広げつつ、以下の発表論文リストにある通り、多数の論考を発表している。

井竿は、日露戦争の前夜のウラジオストックで、真宗僧に化けてスパイ活動をおこなった軍人の花田仲之助が、僧侶となるための 1 年間の訓練を受けた場所が、周防大島の大洲鉄然の覚法寺であったことを明らかにした（井竿、2016）。

島地黙雷については、研究者の倫理についての情報交換を経て特に許可を得た日記の閲覧をおこなうとともに、足尾鉱毒事件の被害者の救恤や、明治 29 年の三陸大海嘯の被災民の救援などに邁進する姿を、あらたな史料によって紹介した（安渓・井竿、2013）

真宗のみに留まらず、幕末に建てられ、明治 9 年に再建された臨済宗の本光寺（佐波郡串）の文珠大士の由来の石碑の解読から、その文章が、岩国永興寺の住職で、後の円覚寺管長として山岡鉄舟・鈴木大拙・花田仲之助などを育てた今北洪川によるものであることなど、あらたな発見もあった（渡辺・鈴木・川口・安渓、2016）。

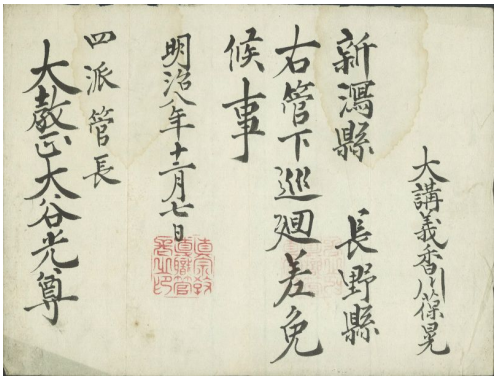
このように、幕末維新期長州僧が、軍事・政治・社会にわたるきわめて大きな役割を果たしていたことを、これまで注目されてこなかった史料を用いて明らかにすることができた。

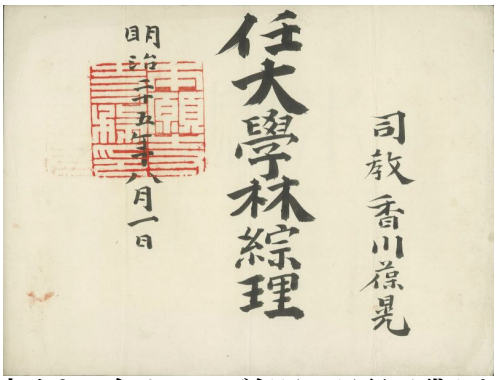
史料のデジタル化

香川葆晃の辞令 42 通のデジタル化をおこなった。４人の僧が力を合わせて、宗主に働きかけ、下間家ほかの武士団を西本願寺から排除する命がけの取り組みに成功する２年前の明治２年に下間家から発給された免許状がもっとも初期のものであった。

明治二年二月下間家から発給された免許状

島地黙雷の日記については、まだ全容を明らかにしていないが、島地大等が『離言院師全集』として整理・製本したものとしては、明治１６年から１８年にかけての山口県巡回日記が古いものであり、明治１９年からは





亡くなる年までほぼ毎日の日記が残されており、席の温まる暇のない活発な活動を知ることができる。ただし、一般公開その他の許可は得ていないので、研究倫理に充分配慮しつつ今後の願教寺との共同での研究体制を築いていくことをめざしているところである。

石泉文庫の所蔵する宇都宮黙霖の膨大な手稿については、そのデジタル化をほぼ完了して、以下の目次（数字はファイルの冊数）から直接本文にジャンプできる形にして、石泉文庫にお返しできるように仕上げを急いでいるところである。

齢草	32	
藤蔓	24	
萩の露	50	
草稿	1	
梅渓草稿	1	
草々稿	1	
詩稿	1	
幽後雑文楮余	2	
遏妖篇	1	
春桟堂記	1	
賛類気	1	
直達	2	
楳渓児童稿	5	
短語	27	
淡路名所　（本典文脈）		1
雲涛集	20	
大喪記	14	
回顧篇	12	
集経鈔	1	
結印法集並印可畧説		2
外国二十二史歌　外二		1
雑文詩稿	1	
遷都歌	1	

菅評	1
折議	1
雪谿稿	1
幽後集	4
幽後雑文楮余	2
詩稿	1
回天詩集	2
日本詩経	1
雪郷集	2
雪谿詩草	1
坂状	1
勢語　巻之二	1
雪郷集　小本	6
毛詩和韻	2
畳韻	2
雪郷稿	1
雪谿稿	1
雪谿漫筆	1
雪谿詩稿	1

引用文献（研究メンバーのものは以下参照）
宮本常一・安渓遊地『調査されるという迷惑――フィールドに出かける前に読んでおく本』みずのわ出版、2008 年

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）
安渓遊地「毛利家の武道・山頭火・蒙古からの引揚：真渓涙骨と養女・芙美子をめぐる記録と記憶」『山口県立大学学術情報』9 号：39-56、2016 年、査読無
http://ci.nii.ac.jp/naid/110010019119
岩田真美「近代の妙好人伝にみる女性仏教者像」『龍谷大学論集』第 485 号、1－22、2015 年、査読無
岩田真美「戦後における親鸞論と森龍吉の「真宗思想史」構想」『真宗学』第 129・130 合併号、369－387、2014 年、査読無
岩田真美「明治期の真宗にみる新仏教運動の影響－高輪仏教大学を事例として－」『真宗研究』第 58 輯、93－111、2014 年、査読有
岩田真美「十九世紀の真宗とキリスト教――自他認識をめぐって」『真宗学』第 127 号、73－94、2013 年、査読無
岩田真美「第四回龍谷大学国際シンポジウム体験記――真宗研究のグローバル化を目指して」『りゅうこく』第 95 号、龍谷大学宗教部、21－26、2013 年、査読無
岩田真美「近代における仏教者のキリスト教観――島地黙雷・大等を中心に」『宗教研究』第 375 号（第 71 回学術大会報告要旨）、333－334、2013 年、査読無
岩田真美「近代移行期における真宗思想の一断面――超然の護法思想を中心に」『龍谷大学論集』第 480 号、28－52、2012 年、査読無、http://repo.lib.ryukoku.ac.jp/jspui/bitstream/10519/5306/1/r-rn_480_003.pdf
岩田真美「幕末維新期における真宗護法論の研究――超然と月性の排耶論を中心に」龍谷大学大学院文学研究科博士（学位）申請論文、2012 年
岩田真美「近代移行期における真宗僧の自他認識――超然の排耶論を中心に」『武蔵野大学仏教文化研究所紀要』第 28 巻、1－19、2012 年、査読有
岩田真美「幕末維新期の護法思想・再考」（林淳、桐原建真、オリオン・クラウタウ、上野大輔との共著）『日本思想史学』第 44 号、63－70、2012 年、査読無
岩田真美「近代移行期における真宗――護法論を中心に」『宗教研究』第 371 号（第 70 回学術大会報告要旨）、151－152、2012 年、査読無
安渓遊地・井竿富雄「資料紹介：島地黙雷ゆかりの願教寺所蔵の足尾鉱毒事件関係書類」『山口県立大学学術情報』6 号：59-93、2013 年、査読無
http://ci.nii.ac.jp/naid/110009557062
Ankei Yuji, Ankei Takako, Chun Kyung-soo, Suzuki Takayasu, Izao Tomio, Iwano Masako, Wilson Amy, Four Priests of Yamaguchi who Saved Buddhism in Early Meiji Era Japan: a Study on Shimaji Mokurai, Ozu Tetsunen, Akamatsu Renjo, and Kagawa Hoko,『山口県立大学学術情報』5: 31-51, 2012 年、査読無 http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/yp/metadata/1095
安渓遊地・安渓貴子「島からのことづて 6〈最終回〉越の国巡礼――幕末維新長州僧の足跡をたどる旅」『季刊東北学』30、2012 年、査読無　http://ankei.jp/yuji/?n=1668

〔学会発表〕（計 17 件）
岩田真美「江戸から明治への真宗教学史の一断面――超然について」、龍谷大学仏教文化研究所 2014 年度第 8 回研究談話会、2015 年 1 月 14 日、龍谷大学
岩田真美“Takanawa Buddhist University's International Network――The Activities of the International Buddhist Young Men's Association” 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2014 年国際シンポジウム「Asian Buddhism: Plural Colonialisms and Plural Modernities」、龍谷大学アジア仏教文化研究センター・京都大学人文科学研究所・国立民族博物館・仏教伝道協会共催、2014 年 12 月 13 日、龍谷大学
岩田真美「明治期の妙好人伝にみる護法思想」、日本思想史学会 2014 年度大会パネル「近代日本仏教の「前夜」――幕末維新期における護法論の射程」、2014 年 10 月 25 日、愛知学院大学
岩田真美「幕末維新期の本願寺教団と親鸞研究の再編」、龍谷大学アジア仏教文化研究センター2014 年度第 1 回国内シンポジウム「近代日本仏教と親鸞」2014 年 5 月 17 日、龍谷大学

岩田真美「19 世紀における真宗とキリスト教との交渉」、第 4 回龍谷大学国際シンポジウム「日米の真宗学研究の現在」、2013 年 2 月 22 日、南カリフォルニア大学
岩田真美「コメント」、第 5 回「仏教と近代」研究会「岡倉覚三・織田得能の「般若波羅蜜多会」―いわゆる東洋宗教会議について―」、2013 年 8 月 3 日、京都テルサ会議室
岩田真美「幕末維新期における真宗僧のキリスト教観」、仏教史学会定例会シンポジウム「近世仏教とその彼方――他者としてのキリスト教と思想の再編成」、2013 年 1 月 27 日、龍谷大学
岩田真美「近代における仏教者のキリスト教観――島地黙雷・大等を中心に」、日本宗教学会第 71 回学術大会、2012 年 9 月 9 日、皇學館大学
岩田真美「近代と真宗――キリスト教との出会いを通して」、真宗学研究学会、2012 年 9 月 5 日、岐阜聖徳学園大学
岩田真美「幕末維新期における真宗護法論――近世から近代への仏教思想の展開」、第 1 回「仏教と近代」研究会、2012 年 5 月 26 日、龍谷大学
岩田真美「幕末期真宗僧のキリスト教観――超然の護法論を手がかりに」、龍谷大学人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター第 2 回全体研究会、2011 年 11 月 10 日、龍谷大学
岩田真美「幕末維新期の真宗思想――護法論から近代仏教へ」、日本思想史学会 2011 年度大会パネル「幕末維新期の護法思想・再考」、2011 年 10 月 30 日、学習院大学
岩田真美「近代移行期における真宗――護法論を中心に」、日本宗教学会第 70 回学術大会パネル「新しい近代日本仏教研究へ――自他認識・国民国家・社会参加」、2011 年 9 月 3 日、関西学院大学
安渓遊地、「山口の歴史とフィールドから未来を考える」「下関未来大学」第二回公開講義、2014 年 6 月 17 日、下関私立大学
安渓遊地・鈴木隆泰・井竿富雄・岩田真美「社会的実践と仏教～他人事から自分事へ～」山口県立大学・科研費セミナー（ゲスト科研費チーム　「生き方死に方を考える社会フォーラム」形成のための社会実験　挑戦的萌芽的研究 No.22653055 から大村英昭大阪大学名誉教授を招いて）研究協力者としての児玉識水産大学校名誉教授参加、2013 年 1 月 29 日、山口県立大学
安渓遊地「僧月性の志をうけつぐ――長州四傑僧の足跡をたどる」柳井市郷談会主催招待講演、2012 年 12 月 15 日、柳井市図書館
安渓遊地「幕末維新の長州僧の活躍――島地黙雷・大洲鉄然・赤松連城・香川葆晃の足跡をたどる旅」、2012 年 9 月 15 日、下関市豊田町公開講座
安渓遊地「僧月性の志をうけつぐ――長州四傑僧の足跡をたどる旅」僧月性追慕記念行事、2012年6月24日、柳井市妙円寺

〔図書〕（計 6 件）
安渓遊地・安渓貴子「幕末真宗僧の足跡をたどる」安渓遊地・井竿富雄編著『東アジアにきらめく―長州やまぐちの遺産・自然と文化の再発見』山口県立大学ブックレット「新やまぐち学」第 6 巻：131-152、2016 年
安渓遊地・井竿富雄「島地黙雷と足尾鉱毒事件被害民」安渓遊地・井竿富雄編著『東アジアにきらめく―長州やまぐちの遺産・自然と文化の再発見』山口県立大学ブックレット「新やまぐち学」第 6 巻：153-164、2016 年
井竿富雄・安渓遊地「花田仲之助と山口」「台湾総督上山満之進と画家陳澄波」安渓遊地・井竿富雄編著『東アジアにきらめく――長州やまぐちの遺産・自然と文化の再発見』山口県立大学ブックレット「新やまぐち学」第6巻：175-194、2016年
渡辺滋・鈴木隆泰・川口喜治・安渓遊地「徳地串に残る禅僧今北洪川の碑文を読む」安渓遊地・井竿富雄編著『東アジアにきらめく―長州やまぐちの遺産・自然と文化の再発見』山口県立大学ブックレット「新やまぐち学」第 6 巻：165-173、2016 年
岩田真美（共著）「戦後における親鸞論と森龍吉の「真宗思想史」構想」、龍谷大学真宗学会編『親鸞仏教の研究』永田文昌堂、369－387、2014 年
岩田真美（共著）「明治初期の仏教と他者としてのキリスト教――島地黙雷の洋行経験」、高田信良編『宗教における死生観と超越』方丈堂出版、190－206、2013 年

〔産業財産権〕なし

〔その他〕
ホームページ等　http://ankei.jp　で「幕末維新」「真宗」などを検索

６．研究組織
(1)研究代表者
安渓　遊地 (ANKEI, Yuji)
山口県立大学・国際文化学部・教授
研究者番号：５０１４９０２７

(2)研究分担者
井竿　富雄 (IZAO, Tomio)
山口県立大学・国際文化学部・教授
研究者番号：１０２８４４６５

鈴木　隆泰 (SUZUKI, Takayasu)
山口県立大学・国際文化学部・教授
研究者番号：２０２８２７０９

岩田　真美 (IWATA, Mami)
龍谷大学・文学部・講師
研究者番号：９０６１０６４２

(3)連携研究者　なし

以上